

エナクティブな意識の歴史性



Speaker

下西 風澄

SHIMONISHI Kazeto

フランシスコ・ヴァレラの提唱した「エナクティブ認知」は近年の認知科学・哲学において重要な立場の一つとして議論されている。その思想は、直接的には身体性認知科学やフッサール、メルロ＝ポンティらの現象学に影響を受けながら形成されたものであるが、西洋哲学史の長い意識論の歴史においてはどのように位置づけられるのだろうか。本講演では、拙著『生成と消滅の精神史 終わらない心を生きる』（文藝春秋、2022）をベースに、古代ギリシア哲学から現代のエナクティブ思想までの大きな流れを把握し、意識の問題を考えることにおける歴史性を議論したい。

講演日時

2023年 **7** 月 **3** 日(月) 14:45-16:15

言語

日本語

講演場所

【ハイブリッド】北海道大学 百年記念会館大会議室（登録不要）
および、Zoomによるオンライン配信（要登録）

登録はこちらから



主催：人間知・脳・AI研究教育センター(CHAIN)

共催：科研費基盤研究 (C) 「エナクティブヴィズムの認識論と存在論の展開：情緒性・自律性・意識」 (JP23K00001)

問い合わせ先： office@chain.hokudai.ac.jp

